

包括的アフリカ農業開発プログラム（CAADP）支援事業[継続] 【22（33）百万円】

対策のポイント

アフリカ地域の国のデータ収集・分析能力強化を世界銀行を通じて実施することでCAADPイニシアチブを支援し、TICADVの成果に貢献します。

<背景/課題>

- ・アフリカは他地域と比べ農業への依存度が高く、人口の半数以上が農村部に居住する国が7割を超えていますが、農業生産性は低く、穀物消費に占める輸入の割合は約3割と高くなっています。このため、アフリカ連合は生産性向上に向けた農業投資を増やすため「包括的アフリカ開発プログラム（CAADP）」イニシアチブを2001年に立ち上げました。
- ・CAADPにおいては、「市場志向型農業」の促進が重要課題となっており、農家の所得向上のための基礎資料となる統計データの整備、指標の作成、分析能力の向上が必要とされています。これは、我が国が進める「農民の所得向上」や「農村地域の経済・社会の発展」といった支援の方向性とも一致しています。
- ・しかしながら、アフリカでは市場志向型農業に必要なデータ整備が十分ではなく、市場動向（価格や流通量）の把握、分析ができない実態にあります。
- ・このため、我が国のデータ収集ノウハウ及び世界銀行の有する開発指標作成ノウハウを活用して、価格や流通量データ整備を行い、CAADPの重要課題の一つである「市場志向型農業」の推進に必要な関連情報の収集・分析能力を強化します。

政策目標

パイロット1カ国において、市場における価格や流通量データが12回収集・公表される。

<主な内容>

包括的アフリカ農業開発プログラム（CAADP）支援事業 22（33）百万円

（1）事前調査、データ収集手法検討会議の開催

パイロット調査対象市場、品目特定のための検討会議を実施し、調査手法の検討に必要な市場の状況等の聞き取り（プリテスト）を実施します。

（2）調査手法の開発

（1）の結果に基づき、アフリカ地域の市場における主要品目別の価格及び流通量データ収集のための調査手法を決定します。

（3）ワークショップの開催

農業統計担当職員及び調査員を対象とした調査手法に関する研修ワークショップや、市場志向型農業の推進に必要な情報分析能力向上のための分析ワークショップを開催します。

（4）開発された手法の実証と成果の共有

パイロット国で実証調査を行い、ウェブページを通じて公表します。また、パイロット国での実証事業の成果を近隣諸国農業統計担当者と共有します。

（ 拠出先：世界銀行（WB）
事業実施期間：平成28年度～平成30年度 ）

（ お問い合わせ先：
大臣官房海外投資・協力グループ （03-3502-5913）
統計企画管理官 （03-3502-8092） ）

包括的アフリカ農業開発プログラム（CAADP）支援事業

事業概要・目的

<背景>

- アフリカ連合は生産性向上に向けた農業投資を増やすため「包括的アフリカ農業開発プログラム（CAADP）」イニシアチブを2001年立ち上げ。
- CAADPにおいて「**市場志向型農業**」の促進が重要課題。農家の所得向上のための基礎資料となる**統計データの整備、指標の作成、分析能力の向上が必要**。
- アフリカでは**市場志向型農業に必要なデータ整備が不十分**。
- 「農民の所得向上」や「農村地域の経済・社会の発展」といった我が国の支援の方向性とも一致。

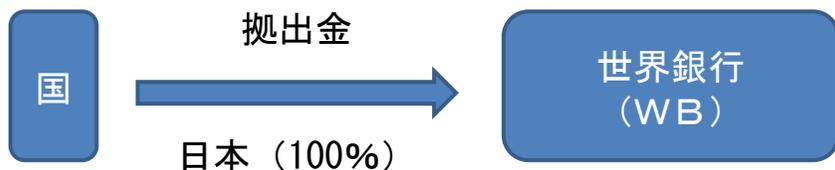
<目的>

- 価格や流通量データ整備を行い、CAADPの重要課題の一つである「市場志向型農業」の推進に必要な関連情報の収集・分析能力を強化。**（TICAD Vの成果に貢献）**

事業イメージ・具体例

- 事前調査、データ収集手法検討会議の開催
 - ・ パイロット調査対象市場、品目特定のための検討会議及び調査手法の検討に必要な市場状況等の聞き取りを実施。
- 調査手法の開発
 - ・ アフリカ地域の市場における主要品目別の価格・流通量データ収集のための調査を導入。
- ワークショップの開催
 - ・ 農業統計担当職員及び調査員を対象とした研修ワークショップ及び分析ワークショップを実施。
- 開発された手法の実証と成果の共有
 - ・ HP等を通じた調査結果の公表、近隣諸国農業統計担当者と事業成果の共有。

資金の流れ



期待される効果

- アフリカ域内の農民の所得向上。
- 市場志向型農業の促進。
- 農業統計データ収集・分析能力の強化。

CAADP支援事業の流れ

参考

